

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4710610538		
法人名	医療法人 祐真会		
事業所名	グループホーム更竹		
所在地	沖縄県宮古島市平良字東仲宗根添1898番地の7		
自己評価作成日	平成25年10月30日	評価結果市町村受理日	平成26年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人敷地内に事業所があり、入居者の健康管理や急変時に医師、看護師との連携が取れ迅速な対応が可能となっている。同法人の運動会、納涼際、ハーリー見学等多彩の行事参加され地域との交流が図れる。法人内に温泉大浴場があり利用者の希望により入浴が楽しめる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kihontrue&JizyosvoCd=4710610538-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の敷地内には法人の病院や複数の介護事業所があり、3階がグループホームとなっている。法人の医療機関や介護施設と連携し法人全体で研修が行われており、医療面については利用者の安心、安全な生活に繋がっている。今年度家族会を立ち上げ、家族の意見や要望を得る機会づくりに努めている。管理者は地域へ認知症の講話に積極的に取り組んでおり、地域支援に期待が出来る。事業所として排泄ケアに重点的に取り組み、理念にそって利用者の尊厳が保てる支援に努めており、調査時の利用者の会話や表情から日頃のケアの状況が伺えた。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成25年12月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成26年1月23日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの見やすい所に明示しており職員会議でも理念の共有して実践に繋げている。	理念は「利用者の尊厳や能力を育てる関係づくり、安全安心で楽しく過ごせる生活づくり、地域や家族と密に触れ合える環境づくり」を掲げ、職員は毎朝理念を確認して業務を開始している。6月には理念に沿ったケアが行われているか話し合いが行われており、利用者の尊厳と安心・安全な生活づくりに重点的に取り組み実践している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	医療法人内主催の運動会、誕生会、敬老会等へ参加している。	日常的に同一敷地内にある、院内保育園の園児や病院の外来受診者等が事業所を訪れ交流が行われている。法人主催の運動会や敬老会等があり、地域の方も参加している。管理者はキャラバンメイトとして地域へ出かけ認知症理解の講師として活動しており、地域の方との関わりが増えてきている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者がキャラバンメイトで活躍し地域への認知症講義を開催して理解を求めている。	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者、家族会代表、法人理事長、法人総務課長参加し運営会議開催している。定期の運営会議ではサービス提供の向上に活かしている。	運営推進会議は2回開催され、7月の会議には利用者全員と殆どの家族が参加している。会議では家族や行政職員と地域行事参加についての意見交換が行われているが、地域代表や知見を有する委員の参加が無く、外部評価や事故等の報告も記録から確認できなかった。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや介護長寿課担当者とホームの実情を報告し指示を仰ぎ協力関係を努めている。	介護保険認定申請時や地域の情報を得る為、定期的に市の窓口を訪れている。市より認知症理解の講師依頼等がある。地域の事例検討会へ参加し、地域の情報を得る等協力関係がある。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという事を、すべての職員が正しく認識しており身体拘束のないケアを実践しています。	身体拘束をしないケアの方針を示し、職員は毎朝のミーティング等で話し合い再確認し身体拘束、特に行動の制限を行わない支援に取り組んでいる。身体拘束を行わないことによるリスクについて利用開始時に説明を行い、転倒事故等があった場合は再度家族と話し合っている。

沖縄県（医療法人祐真会グループホーム更竹）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止に関する研修を受け、ミーティングなどで虐待が起きないように話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の事業所会議会が主催する研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、本人、家族にホームを見学して頂きホームでの生活、医療連携体制や利用料金などについて詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情、不満等は、来院時に直接職員に伝えることが多い。意見箱をホーム出入口に設置しているが使われていない。	利用者からは日頃のケアの中で聞くようにしている。家族からは面会時や運営推進会議等で聞く機会とし、管理者から電話で意見や要望を尋ねる努力をしている。7月には家族会も結成されている。家族から行事等の「外出時は協力したい」との申し出や「入れ歯がほしい」の要望で歯科受診に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員がストレスをためないよう、職員相互が気兼ねなく話し合うコミュニケーションの場を設けている。	管理者は朝のミーティングや月1回開催の会議、日頃の会話で意見や要望を聞く様にしている。管理者の提案で、食器を陶器へ替え、カーテンを新調し、リハビリを兼ねて温泉で入浴する等意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も頻繁に現場に来られ、職員の業務や悩みも把握している。職員が向上心を持って働ける労働環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は厳しく、病院内の医師などの協力を得て病院内研修を行い、職員は全員参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの管理者との情報交換を持ち、サービスの向上を目指している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常的に接する中で、意識的に本人が求めている事を引き出しながら関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は、家族に会って家族が求めている事、困っている事を十分に聞き入れ、相談を受け、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要か、本人にとってどのように暮らすのが最良なのかを見極めて利用開始しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが協働しながら、穏やかな生活ができる場面を心がけている。昔の生活の知恵など、自宅での暮らしぶりを聞き入れ、教えて頂きながら、家族を同じ思いで支援し信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を見極めながら、外出、外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めたり、行事等に家族を誘ったりしながら、良い関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでも大切にしてきた馴染みの場、行事等本人も参加出来るよう家族と連携をとって、知人、友人の人達にも遊びに来て頂くよう声掛けしている。	法事や盆・正月等に自宅に帰り馴染みの方と会い、法人内の病院や施設を訪れた際に知人や親せき等が面会に訪れている。また、家族と共に自宅周辺へのドライブや馴染みの散髪屋へ出かける等関係性の継続支援がされている。馴染みの人や場との関係性の把握は家族から聴取している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションや談話できるスペースを利用して一人一人が楽しく過ごせる場面を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方でも、来てもらうよう連携したり相談にもものっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望、意向を出来る限り、実現出来る様に努めている。家族や友人にも相談している。	利用者は意思表示可能な方が多く、管理者は全員に朝の挨拶をしながら要望を把握するようにしている。職員は日頃の会話をとおして把握に努め、「昔みたいに髪を染めたい」等把握し支援に繋げている。利用者は三味線を弾き、好きな音楽を聞いて過ごす等している。「痛い、痛い」の言葉を繰り返す利用者の支援方法について職員で情報を共有し思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴に関する情報を本人や家族から聞き入れ、本人を知る取り組みをケアに活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や睡眠、排泄の時間、生活習慣等その人の全体把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議を行い、家族の意見・要望を聞き、介護計画に意識的に取り組んでいて緊急案がある場合は、随時会議を行っている。	介護計画書は更新時に見直す事としている。介護職員が計画書の実施状況の評価を毎月行い、3カ月ごとにモニタリングを実施し、随時の見直しも行われている。担当者会議は利用者や家族が参加して開催され、個別の介護計画書作成となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録ファイルを用意しており、日常の暮らしの様子や排泄状況、食事・水分チェック等、身体的状況を記録して介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人のディサービスの交流、受診や入院の回避、早期退院の支援、重度化した場合の入院の回避等支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族会結成し地域との連携のもと意見交換している、入居者の安全な生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ定期的に連絡したり、併設された病院より、主治医が来訪されています。来訪時には利用者の診察や現状報告をし、スムーズな受診ができます。	利用者の多くが同一法人内にある病院をかかりつけ医とし職員が同行している。県立病院がかかりつけ医の利用者は家族で対応している。夜間帯の利用者の発熱等については法人の病棟看護師が対応している。受診の際はバイタルや症状等について文書で情報提供をしている、	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームが病院に併設されていて急変時にはホーム対応看護師と情報交換を行い受診を受けている。又緊急時には24時間対応できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	手術が必要な時以外は同法人の病院に入院し早期退院に向けて情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としては、終末期に向けて、家族の確認をしています。自然の流れで終末をホームで迎えたいとの希望もあり、職員勉強会を定期的開催している。	終末期における考え方はあるが文書化はされていない。利用開始時に家族と話し合いその結果を記録し共有している。これまで重度化すると法人病院へ入院となっていたが、グループホーム内で最後を迎えさせたいという希望もあり、管理者は看取りを行いたいと職員と話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人が定期的に勉強会があり、参加しています。急変や事故発生時は、法人の医師、看護師に連絡し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、消火訓練を年2回実施している。職員連絡網に沿って職員全員参加している。4月に夜間の火災を想定し実施してます。次回の訓練は11月予定。	消防訓練は4月と12月に夜間想定も含め総合訓練が実施されている。地域の協力はないが、同一建物内の職員が訓練に参加し協力している。過去の大型台風の経験を生かし、法人全体で缶詰等の食料品やガス等の備蓄を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者一人一人に対し丁寧な言葉で接して本人のプライバシーに関する事を話さない事を徹底し、記録等は事務所に保管している。	一人一人の人格の尊重とプライバシーについては職員心得や言葉使いについて掲示がされ、法人全体集会や職員ミーティングで周知されている。言葉使いでは「あんたは」という言葉は使わない、フルネームで呼ぶよう確認し実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人に希望を聞き希望叶うように、支援している。毎日化粧したい等の希望もありケアに活かしている。利用者と一緒に過ごす時間を通じて希望、好み、関心を見極め支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員朝の挨拶時利用者一人一人にどのように過ごしたいか確認し希望に沿う生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出、行事参加の着替えは職員と一緒に考えて化粧やおしゃれを手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片づけは利用者と共に行っているが、法人の管理栄養士の献立によりホームで調理している。入居者の好みの味付けや好みの硬さを工夫している。	家庭的な食事を目指し、陶器の食器を購入し使用している。法人の栄養士が献立は作成し、食材も調達している。調理は事業所内で行われ、利用者はテーブルふきやおしぼりたたみ、洗い物を一緒に行っている。職員も一緒に食事を摂り、調査時は利用者の要望で刺身がだされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分補給量を毎日記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面場に職員付き添い、食後の口腔ケアに取り組んでいます。口腔ケア困難な利用者は職員介助にてケアに努めています。就寝前には、入れ歯をポリドントで洗浄しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し日中、夜間トイレ誘導している。現在オムツ使用者は一名、他8名はトイレ誘導しています。	排泄介助はトイレ誘導を基本とすることを共通認識し、排泄パターンをチェック表で把握して、利用者個々に細やかにトイレ誘導を行い、2人が車いすから手引き誘導となった。同性介助を基本とし、外で待機し声かけするなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のラジオ体操、リズム体操、レクリエーション等の適度の運動や水分補給を促し自然排便が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日本人の意志確認し入浴している。法人の外来に温泉大浴場あり希望者は浴場にて入浴されている。	入浴は1日ごしで午前入浴が基本となっている。希望する利用者は毎日入浴する場合もある。また、リウマチ疾患のある利用者は建物の1階にある温泉で入浴することもあり、温泉入浴を増やしていく予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のレクリエーション、散歩の活動で穏やかに安心して就寝できるように、また利用者には睡眠障害を見極めて医師と相談し薬剤を処方するなどして安眠支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをファイルに整理し、職員は利用者個々の薬の目的を知り正しく服用できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の配膳や食器拭き、洗濯たたみ、時々はおやつのはらやち作り等、気分転換にドライブに出かけている。		

沖縄県（医療法人祐真会グループホーム更竹）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴をかねて散歩、法人の主催されている父の日、母の日のドライブ等にて楽しみの場を作っている。	事業所が3階にあり外出の機会は少ないが、1階に設置したプランターのネギに毎日、水をかけに行き、1階の外来を受診した日等に中庭を散歩したりする等外出の機会を作っている。また、ハーリー、浜下り等行事には法人全体で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はしないようにしている。必要な時にその都度預かっていて使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの手紙、電話を歓迎していて利用者も自由に使用できるようにしている。ホーム側より島外にいる子供達に電話支援し本人様と会話できる支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共用の空間はバリアフリーでくつろぎの場である。家具の配置、居室に絵画を飾り居心地の良い空間作りをしている。	共用空間部分は吹き抜けとなっており圧迫感がない。入り口近くにはソファセットが配置され、利用者や面会時、運営推進会議にも利用され、居心地よく過ごせる場となっている。長いすが浴室近くに配置されているが、共用空間が広く数人で落ち着ける適度な広さの空間が必要と検討中である。	共用空間の一角を利用してくつろげる場所の設置の検討を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で少し離れていて安心して一人や数人で過ごせるソファのコーナーの場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に連絡をとり馴染みの物などを持ち込んでおり居心地良く過ごせるように工夫している。	居室は、ベットと整理タンスを事業所が設置している。利用者各々にイス、テーブル、時計、テレビ等使い慣れた物が置かれ、孫の写真等もあり、安心して居心地よく暮らせるようになっている。ある利用者は大好きな曲が録音されたカセットテープを持参して穏やかに過ごすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内外での園芸をしたり日向ぼっこを楽しめる場の環境を作っている。		